

令和4年度 学校評価実施報告書

学校名 (上京中 学校)

教育目標

- 校訓「人・もの・ときを大切に」
- 学校教育目標 「自立・貢献・夢づくり」 （「創発」）
 - ・豊かな心とたくましく生きる力を備え、社会に貢献する夢や希望をもって、未来を切り拓く生徒の育成

（「創発」：一人ひとりの個が集まった時にできる「単なる集団」以上の特性や強みをもった集団になることを目指す。[クラス・学年・部活動・委員会・教職員などの集団] また、新たな解を目指して、協働して創意工夫を凝らし、その解を発信していく。）

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <p>今年度後期の学校評価アンケートでは、教育目標について、生徒は、1年生 92.1%、2年生 98.2%、3年生 92.6%、保護者は 92.8%が達成できていると回答している。生徒は、おしなべて高い数値となっており、学校目標である、夢や希望をさだめることを意識して、行動化しようとする姿勢が伺える。さらに、教職員は、重要度 94.7%、実現度 100%の回答があり、教育目標に一丸となって取り組んだ姿勢がうかがえたことは成果である。今年度、校訓は昨年度からのものを引き継ぐものの、学校教育目標「自立・貢献・夢づくり」にはスローガン「創発」を付け加え、より具体的な指針を示すことで、教職員をはじめ生徒・保護者にも理解が深まり、具現化できたと考える。また、将来を見据えた成長過程を意識して、学年・学級の目標が検討され取組も進められたと考える。</p> <p>また、本校教育目標を達成するための礎として、保幼小中の一貫教育における自己肯定感・自己有用感などの自尊感情の育成を柱として互いに連携しながら教育活動に継続的に取り組みたい。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>教育目標を実現するため、「発信する力」・「折れない心」をキーワードとして1年間教育活動を行った。その結果自己有用感の向上がみられた。これは総合的な学習の時間を中心にカリキュラムマネージメントの成果が出た結果といえる。来年度もカリキュラムマネージメントの研究指定を受けているので、さらに向上できるように、保幼小中の連携も意識しながら継続していくたい。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月24日（月）	学校運営協議会
最終評価	3月6日（月）	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

「深い学び」を誇る主体的・対話的な授業の創造と支え合い高め合う集団づくりの推進

～「確かな学力」と「豊かな心」・「健やかな体」の育成を目指して～

具体的な取組

【授業改善】

- ①「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業実践から資質・能力の育成を図り、学びの質を高める。生徒達が学習したことの価値や自分にとっての意義を確認できるような授業の実現を目指し、生徒の意欲的な学びを引き出す。
- ②確かな学力の向上を目指し、基礎・基本の定着を図るとともに、知識・技能を活用する学習活動の充実、習得・活用・探究という学びの過程から、問題解決的な学習や探究活動を充実させることにより知識をつなげ深く理解するなどの「深い学び」を生み出す授業改善に努める。
- ③学習課題に応じた「まとめ」「振り返り」の徹底を通して、「自らの学びを調整する力」の育成を図る。
- ④多様な学習形態により、言語活動の充実を図り、協働的な学びを生み出す工夫をする。思考力・判断力・表現力を育成するとともに主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
- ⑤校内授業研修・校内研究授業や支部授業研修会における授業交流などを通して、子どもが主体的に学ぶ授業への改善という視点から指導力向上にむけて研鑽を積み、各教科で問題解決的な学習や探究活動の充実を目指す。
- ⑥全国学力・学習状況調査や学習確認プログラム（予習シート・復習シートを含む）を計画的に取り組ませる。また結果の分析を行い、生徒の学力実態を把握するとともに、課題を明らかにすることで、授業改善や指導の工夫に取り組む。
- ⑦年間指導計画に基づき、授業のねらいを明確にした授業を展開する。また「目標に準拠した評価」や「目標と指導と評価の一体化」の充実を図ることで、効果的な学習評価を実施する。
- ⑧教科会の充実を図り、教員間の同僚性を高める。（時間割内の教科会を活用する。）
- ⑨G I G Aスクール構想の下、「情報活用能力」を育てるために、ICTを活用した学習場面を設定する。
- ⑩支援を要する生徒に対する指導の目標や内容を明確にし、総合育成支援教育の充実を図る。

【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】

- ⑪「学習のすすめ」や「学習の手引き」を作成し、日々の授業と家庭学習の連動を通して、自学自習の習慣化をはかる。授業と連動した課題の提示方法の工夫・改善を行う。
- ⑫定期テスト前や、長期休業期間を利用した補充学習を実施し、自主的に学習する態度を育む。
- ⑬朝読書を継続的に取り組ませ、落ち着いた雰囲気の中で、授業に集中できる環境作りを推進する。
- ⑭ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる方策を開発・実践する。
- ⑮支援が必要な生徒について、個別の指導計画・個に応じた指導計画を作成する。また、支援が必要な生徒への教職員の共通理解を深め、指導に役立てるための研修会を実施する。

【人権教育・道徳教育】

- ⑯挨拶の励行、学習規律・基本的生活習慣の確立とともに、望ましい人間関係を構築する態度を育成する。互いを認め合い励まし合う集団づくりに向け、学校行事、生徒会活動、部活動等の活性化に努め、集団生活や集団活動の楽しさを実感するための取組の充実を図る。
- ⑰クラスマネージメントシートや教育相談アンケートの結果を学級づくりに活かす。

⑯学校行事、総合的な学習の時間、道徳の時間、特別活動等のあらゆる取組を通して、自尊感情や自己有用感、共感力を高める機会を設ける。

⑰人権文化の理解と定着を目指して、計画的・系統的に人権学習を実施する。

⑱人権学習の時間に限らず、教科・道徳・特別活動等、教育活動のあらゆる場面を通して、相互の主体性を尊重し共に成長し合う生徒の人権意識の向上に努める。

⑲体験活動や各教科、総合的な学習の時間、及び特別活動における取組と道徳教育を関連付け、社会の一員として必要な公共心や公徳心、生命を尊重する道徳的価値の自覚を深める指導の充実を図る。

⑳道徳の評価「こころのあゆみ」や学期ごとの振り返りを効果的に活用し、「生徒を育てる」評価のあり方、生徒自身の成長と課題を自己認識させることができる評価の工夫と改善を図る。

㉑公共の精神としなやかで豊かな心の育成を通して、自ら律する力の育成とともに規範意識の向上に取り組む。

【キャリア教育】

㉒総合的な学習の時間を核とした計画的・系統的な（カリキュラム・マネジメントの視点を意識した）キャリア教育を推進し、探究活動の充実を図ることで子どもが主体的に学ぶ力を育み、成長と自己実現を支援する。

㉓「生き方探求（キャリア）パスポート」等を活用しキャリア形成についての見通しを持たせる。

㉔進路指導を通して、生徒が自己実現に向けた進路選択ができるように支援する。

（・総合的な学習の時間における探究活動や進路調べを、本校のキャリア教育（1, 2年）として位置づけ、取組を進める。）

【保幼小中連携・地域連携】

㉕夏季合同研修会を通して、保幼小中教員の交流を深める。

㉖小学6年生を対象に中学校での部活動体験や授業体験を実施するなど行事における連携を図る。

㉗小中連携により、義務教育9年間を見通した学びと育ちの充実を図り、小中一貫教育を推進する。

㉘授業参観や公開授業の機会を利用し、保護者や地域の人々の参加・協力を得るなどして、家庭や地域社会との共通理解や連携を深める。

㉙文部科学省より「カリキュラム・マネジメント実践研究事業（授業時数特例校制度）」の研究指定を受けたことにより、教育課程で定められた授業時数を柔軟に運用し、カリキュラム・マネジメントを推し進め学習効果を高める研究を進める。テーマを「郷土・地域教育」と設定し、具体的には2年生の総合的な学習の時間における年間計画に沿いながら、国語と美術で行う。今年度は、「社会と主体的にかかわる」というテーマのもと、前期に商店街活性化・繁栄のために美術作品を制作することで行動化に移す。

（取組結果を検証する）各種指標

【授業改善】【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】

・全国学力学習状況調査や学習確認プログラムの分析結果。

・全国学力学習状況調査生徒質問紙の結果。

・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）

該当項目…授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。

生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。

授業での話し合い活動に積極的に参加しているか。
問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。
主体的・対話的で深い学びに向けた問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業をおこなっているか。
予習シートを仕上げたか。復習シートに取り組んだか。計画通りに学習を進めたか。
GIGA 端末を使用して、学習に意欲的に取り組めたか。
朝読書に積極的に取り組んでいるか。
家庭学習は行っているか。

【人権教育・道徳教育】

- ・学校評価アンケートの結果。

【キャリア教育】【保幼中連携・地域連携】

- ・全国学力学習状況調査（質問紙調査）

該当項目… (28) 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある

(29) 今住んでいる地域の行事に参加している

(30) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

- ・学校評価アンケートの結果。（生徒・保護者・教職員）

該当項目…問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。

総合的な学習の時間は計画的・系統的に実施され、課題を発見し、解決する力を身につけていくよう指導を工夫しているか。

中間評価

各種指標結果（%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

（下線は、今後の課題の対象と考える項目）

【授業改善】【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】

○学校評価アンケート結果 ※()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。

・「授業がわかりやすい」…3 学年とも 85%以上、保護者 92.3 %、教職員(伸ばす学習を展開) 95.3%

・「授業に意欲的に取り組んでいる」…3 学年とも 85%以上、保護者 86.4%、教職員 95.4%

・「授業での話し合い活動に積極的に参加している」…1 年 86%、2 年 81.7%、3 年 79.5%、教職員
(場面設定) 85.7%

(R2 年度 1 年 71.9% (75.2)、2 年 83.2% (85.5)、3 年 88% (88.3)、教職員 (場面設定) 100%
(95.2)、R3 年度 1 年 86.5% (83)、2 年 76.1% (68.6)、3 年 92% (91.2)、教職員 (場面設定)
100% ※ () 内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。)

・「意見や考えを人前で発表している」…1 年 70.2%、2 年 62.4%、3 年 63.1%

(R2 年度 1 年 55.7% (62.3)、2 年 70.7% (63.1)、3 年 77% (43.2)、R3 年度 1 年 60.3% (60.6)、
2 年 52.1% (49.7)、3 年 75.1% (72.6) ※ () 内の数字は前期の結果。)

・「問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っている」教職員 90.5%

・「主体的・対話的で深い学びに向けた問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業をおこなっている」教職員

・「GIGA 端末を利用して意欲的に学習に取り組んでいる」…1 年 86.0%、2 年 84.7%、3 年 77.2%
教職員 66.6%

- ・「予習シート・復習シートに取り組んだ」…1年 84.8%、2年 91.0%、3年 80.3%
 - ・「朝読書に積極的に取り組んでいる」教職員 86.3%
- 全国学力・学習状況調査(質問紙調査)結果「平日の読書時間が1時間以上」…12.2% (全国 12.4%)
- ・「家庭学習の習慣が身についている」…1年 81.0%、2年 74.4%、3年 72.1%
- 学習確認プログラム結果(最新結果、京都市平均との比較)
- ・1年生…国語、数学共に平均を上回っている…(国語 +4.0、数学 +6.9)
 - ・2年生…5教科とも平均を上回っている…(国語 +5.3、社会 +7.7、数学 +11.8、理科 +8.2、英語 +8.2)
 - ・3年生…5教科とも平均を上回っている…(国語 +5.0、社会 +4.6、数学 +9.7、理科 +4.0、英語 +8.4)

○全国学力・学習状況調査結果(京都府平均との比較)

- ・国語・数学・理科ともに京都市平均を上回っている…(国語 +4.0、数学 +10.0、理科 +4.0)

<全国学力学習状況調査(質問紙調査)より>

- ・「1・2年の授業で、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたか。」…74.8%
(全国 79.2%)

- ・「1・2年の授業で、自分の考えを発表するとき、うまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てを工夫したか」…66.2% (全国 63.3%)
- ・「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできているか」 75.6% (全国 78.7%)
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」85.6% (全国 72.1%)

【人権教育・道徳教育】

- ・「自分は人を大切にしている」…1年 97.4%、2年 98.5%、3年 97.5%、教職員 95.4%、保護者 90.9%
- ・「道徳の授業を今後の生活に生かしている」…1年 89.5%、2年 91.8%、3年 92.7%

【キャリア教育】【保幼中連携・地域連携】

<全国学力学習状況調査(質問紙調査)より>

- ・(28) 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある 18.0% (全国 21.2%)
- ・(29) 今住んでいる地域の行事に参加している 39.6% (全国 40.0%)
- ・(30) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある 43.2% (全国 40.7%)

<学校評価アンケートより>

- ・総合的な学習の時間は計画的・系統的に実施され、課題を発見し、解決する力を身につけていくよう指導を工夫している。…教職員 100%
- ・生徒は地域を愛し、地域のために役に立とうと思っている。…1年 86%、2年 82.6%、3年 79.7%、教職員 81.8%

自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <p>○学力向上に向けて、基礎基本の定着は概ね取り組めていると考える。3学年とも学習にも前向きに取り組める環境ができていることが大きな要因になっていると思われる。また、学習確認プログラムに向けての取組(予習・復習シート)もやりきらせる指導を行っているため真面目に取り組んだ生徒は結果に結びついている。</p> <p>○全国学力・学習状況調査から、3年生は学校の授業以外に、平日1日あたりの学習時間(塾などを含む)が「2時間以上」41.7% (全国35.2%) という結果が出ており学習に多くの時間を</p>
------	---

費やしている生徒が多いことがわかる。

- 教員側は話し合い活動や発表の場の設定に積極的に取り組んでいるが、生徒たちは自信をもって人前で発表できるまでにはまだ至っていない。コロナ禍ではあるが、今後も生徒の実態を見極めながら学習活動に工夫を取り入れていきたい。
- GIGA端末を有効活用することで、生徒の学習意欲の喚起に役立つことがわかった。今後は情報活用の視野から基礎・基本の定着やより探究的な学習活動にも取り組ませたい。
- 朝読書にも落ち着いた環境のもと、しっかり取り組めている。全国学力・学習状況調査でも「平日の1日あたりの読書時間が1時間以上」…12.2%（全国12.4%）という結果であった。学校図書館の活用も促しながら読書の習慣を身につけさせたい。
- 道徳の授業で学んだことを今後の生活に生かしていきたいと考えている生徒が3学年とも90%に近いことがわかった。今後もすべての学校教育のなかで道徳教育を推進していきたい。
- 総合的な学習の時間が充実した結果、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動が活性化した。今後もこの「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究のサイクルを大切にした授業実践に努めたい。
- 地域との関わりについては昨年度より総合的な学習の時間で取り組んでいる。今後も生徒の社会参画しようとする態度を育成するような授業・しきけを模索したい。

分析を踏まえた取組の改善

本校生徒は落ち着いた学習環境のもと、また、学校外での学習にも意欲的に取り組んでいる結果、基礎・基本を身につけている生徒の割合は多いことがわかる。しかしながら家庭学習の習慣が身についたと感じている生徒は8割未満であり、自律した学習者を育成するための工夫が必要だと考える。8割以上の生徒は「授業がわかりやすい」と感じているものの、自信を持って人前で発表することに躊躇している様子もわかった。自信のなさは自己肯定感とも関係していると思われる所以、学級での人間関係づくりなどに工夫をするとともに、毎時間の授業では生徒に「わかった」という実感を伴わせるような、わかりやすい授業を展開するための工夫・改善をめざしたい。また、生徒の興味・関心を引き出せるようなより発展的な学習活動も取り入れ、すべての生徒が意欲的に学習活動に参加できるよう工夫していきたい。同時にGIGA端末を効果的に活用することで個別最適化をめざした授業改善にも取り組んでいきたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

【授業改善】【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】

- ・学習確認プログラムの分析結果。
- ・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）

該当項目…授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。

授業での話し合い活動に積極的に参加しているか。

生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。

問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。

予習シートを仕上げたか。復習シートに取り組んだか。計画通りに学習を進めたか。

GIGA端末を使用して、学習に意欲的に取り組めたか。

朝読書に積極的に取り組んでいるか。

家庭学習は行っているか。

【人権教育・道徳教育】

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果。 該当項目…自分は人を大切にしているか。 道徳の授業を今後の生活に生かしているか。 <p>【キャリア教育】【保幼中連携・地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果。 該当項目…総合的な学習の時間では、問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。 地域を愛し、地域のために役に立とうと思っているか。
学校 関係 者評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感、自信を持てる方策をしっかりとつけてほしい。 ・保護者の協力も不可欠であるので、理解を得る工夫をしてほしい。 ・観察をしっかりとし、その生徒に合った指導を見出してほしい。 ・人前で発表できる生徒はしっかりと評価してもらいたいが、中には人前でほめないでほしい、といった生徒や、ほめてもらうと、そのとおりにしないといけなくなると捉える生徒もいる。また、発表することで目立って嫌な気持ちになるといった新聞記事も見たこともあり、生徒によっては様々な配慮が必要なのではないか。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果											
【授業改善】【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】												
○学習確認プログラムの分析結果。(最新結果)												
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生…5教科とも平均を上回っている…(国語+5.8、社会+10.6、数学+8.4、理科+10.6、英語+4.5) ・2年生…5教科とも平均を上回っている…(国語+5.1、社会+5.7、数学+10.5、理科+8.5、英語+7.7) ・3年生…5教科とも平均を上回っている…(国語+5.5、社会+4.9、数学+6.9、理科+3.1、英語+6.3) 												
○学校評価アンケート(生徒・保護者・教職員)※()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。												
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかりやすい」…3学年とも85%以上、保護者91.4%、教職員(伸びず)89.5% ・「授業に意欲的に取り組んでいる」…3学年とも85%以上、保護者86.8%、教職員100% ・「問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っている」教職員84.2%(90.5%) ・「生徒は、朝読書に積極的に取り組んでいる」教職員84.2%(86.3%) ・「予習シート・復習シートに取り組んだ」…1年89.5%(84.8%)、2年88.2%(91.0%)、3年83.8%(80.3%) ・「自分は家庭で学習をする習慣がついている」 …1年79.0%(81%)、2年74.5%(74.4%)、3年78.7%(72.1%) 												
授業での話し合い活動に積極的に参加している		1年	2年	3年	保護者	教職員						
	R4年度	86.8% (86%)	87.2% (81.7%)	85.3% (79.5%)		89.5% (85.7%)						
	R3年度	86.5%	76.1%	92%		100%						
	R2年度	71.9%	83.2%	88%		100%						
意見や考えを人前で発表している		1年	2年	3年	保護者	教職員						
	R4年度	70.2%	70.4% (62.4%)	67.0% (63.1%)	50.8% (得意)	89.5% (力がつく)						
	R3年度	60.3%	52.1%	75.1%	49%	100%						
	R2年度	55.7%	70.7%	77%	43.4%	100%						

・「GIGA 端末を利用して意欲的に学習」… 1 年 88.4%(86.0%)、2 年 89.1%(84.7%)、3 年 87.6%(77.2%)
教職員 68.4%(66.6%)

【人権教育・道徳教育】

○学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）※()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。

・「自分は人を大切にしている」… 1 年 94.6%(97.4%)、2 年 98.1%(98.5%)、3 年 94.2%(97.5%)、
保護者 89.9%(90.9%)、教職員 100%(95.4%)

・「道徳の授業を生活に生かしている」… 1 年 92.1%(89.5%)、2 年 95.4%(91.8%)、3 年 90.9%(92.7%)

【キャリア教育】【保幼中連携・地域連携】

○学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）※()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。

・「総合的な学習の時間は計画的・系統的に実施され、課題を発見し、解決する力を身につけていく
よう指導を工夫している」…教職員 94.7%(100%)

・「地域を愛し、地域のために役に立とうと思っている」… 1 年 86.6%(86%)、2 年 88.9%(82.6%)、
3 年 78.8%(79.7%)、保護者 56.4%(57.2%)、教職員 78.9%(81.8%)

自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>○学力向上に向けて、基礎基本の定着は概ね取り組めていると考える。3 学年とも学習にも前向きに取り組める環境ができていることが大きな要因になっていると思われる。また、学習確認プログラムに向けての取組（予習・復習シート）もやりきらせる指導を行っているため真面目に取り組んだ生徒は結果に結びついている。一方で、家庭で学習する習慣が身についているとする生徒は 3 学年とも 80% 未満である。家庭ではなく、学習塾の自習室などの活用が多いのがその要因かもしれない。</p> <p>○意見や考えを人前で発表しているとした生徒は、前期に比べると微増ではあるが改善がみられた。しかしながら教員の認識とはずれが大きい。生徒たちの自己肯定感をはぐくむとともに、今後も生徒の実態を見極めながら学習活動を工夫していきたい。</p> <p>○GIGA端末の活用が生徒の学習意欲に肯定的な影響があることがわかった。教師の活用以上に生徒たちはそれぞれに工夫して活用している様子もうかがえる。今後は情報活用能力の向上も視野に入れつつ基礎・基本の定着やより探究的な学習活動にも取り組ませたい。</p> <p>○朝読書にも落ち着いた環境のもと、しっかり取り組めている。学校図書館の活用も促しながら読書の習慣を身につけさせたい。</p> <p>○道徳の授業で学んだことを今後の生活に生かしていきたいと考えている生徒が 3 学年とも 90% 以上であることがわかった。また、人を大切にする心もはぐくまれている様子がわかった。今後もすべての学校教育活動のなかで道徳教育を推進していきたい。</p> <p>○地域との関わりについては「総合的な学習の時間」での取り組みにより、より身近に感じている生徒が増えている。今後も生徒の社会参画を促すような授業・しきけを模索したい。</p>
	分析を踏まえた取組の改善 <p>来年度も引き続き基礎・基本の定着を大切にするとともに、主体的に学び続ける生徒の育成に励みたい。また、発展的な学習活動や問題解決的な課題の設定・探究活動を取り入れた不断の授業改善に取り組みたい。「総合的な学習の時間」を核として、多様な他者との出会い・かかわりを創出することによりスマールステップでの成功体験をいくつも味わわせることにより自己肯定感の向上を図り、生徒の発信力の向上に努めたい。</p>

学校関係者による意見・支援策

「人前で意見や考えを発表している」という項目については、主体的に学び続ける生徒の育成のため、発展的な学習活動や問題解決的な課題の設定・探究活動を増やした結果、若干向上した。今後も継続的に続けていきたい。また「家庭学習をする習慣がついている」という項目については今後も改善が必要である。その中でより具体的に分析できるように、毎日どれくらいの時間家庭学習を行っているか（1時間・3時間など）具体的に記入することが効果的であると意見をいただいた。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

豊かな心を育てる「関係」を創り出し、「自尊感情」や「自己有用感」を高め、自他を大切にし、高め合う「態度」を育てる取り組みを推進する。

具体的な取組

- ① 道徳の時間を中心としたしなやかな道徳教育の実践を推進し、他人を思いやる心や他者を認める心と、人と人との絆の大切さを感じさせながら、自らの生活や人生をより良くするために自ら正しい判断ができる力の育成を図る。
- ② 命を大切にする心や他人を思いやる心、感動する心など、生徒の豊かな人間性の育成を図る。
- ③ 自己有用感や自己肯定感などの自尊感情を持たせる中で、他人の良さを見つけようと努め、自分もまた周りから大切にされているという実感を持ち、「自信と誇り」を持って安心して自らの力を發揮できる集団づくり・学級経営を実践する。
- ④ 様々な教育活動を通じて、障がいの特性や障がいのある生徒の困りについて理解と認識を深め、互いに尊重し、共に成長し合う教育を推進する。
- ⑤ 授業やワークシートは対話を通して生徒が学び合い「深い学び」につながるよう、また生徒が自らの学びを主体的に把握し、その学びを実践につなげられるよう、単元や題材を構成する。
- ⑥ 「こころのあゆみ」に関して、学校教育目標、学級目標をもとに、道徳の授業を通して自分自身の現状を捉え顧みて、年間を通して自己目標を設定させる。

「道徳だより」を学期に1回発行し、保護者へ情報提供を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・年間計画に基づいて道徳の授業が実施されているか。
- ・道徳的価値の理解や道徳的態度・実践力が身につくよう指導されているか。
- ・自尊感情（自己肯定感と自己有用感）を高める集団づくり、学級経営ができているか。
- ・日常の清掃を積極的に行い、学校の環境をよりよくしていく努力をしたか。
- ・進んであいさつができるか。
- ・普段の交流事業や学校行事、生徒会活動における総合支援学校との交流。
- ・道徳の授業におけるワークシートの自己評価ができているか。
- ・「こころのあゆみ」における振り返りの変容。

中間評価

各種指標結果 (%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算)

(下線は、今後の課題の対象と考える項目)

○学年教員で協力しながら、すべての項目について、年間計画に基づき指導できている。

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「道徳の授業は今後の生活に活かしていける」1年89.5%, 2年91.8%, 3年92.7%
「道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」 1年90.4%, 2年92.5%, 3年92.6%

○自尊感情について

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「上京中学校は、人を大切にしている学校」1年100%, 2年96.3%, 3年96.0%
「自分は周囲から大切にされている」 1年98.2%, 2年93.3%, 3年94.3%
「自分は人を大切にしている」 1年97.4%, 2年98.9%, 3年97.5%
- ・保護者……「子どもは、自分の長所を知り、自分のよさを生かそうと努力している」 75.4%
(R2年度 70.1%(68.9)、R3年度 76.7% (69.6) ※()内の数字は前期の結果。)
「子どもは、自分が大切にされていると感じている」 91.2%
「子どもは、人を大切にする言動をしている」 90.9%
- ・教職員……「生徒は、自分を大切にすると共に他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度が養われている」 95.4%
「本校では、生徒の良いところを認めて適切に評価している」 91.0%
「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を十分生かせるような取り組みをしている」 95.4%

※全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 結果 (3年生)

- ・「自分にはよいところがあると思いますか」 76.3% (京都府公立 77%, 全国 78.5%)
- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」 85.6% (京都府公立 86.1%, 全国 88.4%)
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」
94.9% (京都府公立 96.2%, 全国 96.4%)
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 93.5% (京都府公立 95.1%, 全国 95.0%)

○美化意識

※学校評価アンケート結果

- ・「掃除など、きれいな学校になるように努力した」 1年94.8%, 2年95.5%, 3年91.0%

○あいさつ

※学校評価アンケート結果

- ・「あいさつのできる学校・生徒」 1年96.5%, 2年91.0%, 3年86.9%, 保護者 85.1%
教職員 68.2%
- ・「自分はあいさつができる」 1年94.7%, 2年93.1%, 3年92.6%

自己評価	分析 (成果と課題)
	<p>○昨年度よりは、生徒が道徳の授業の重要性を感じ、生活に活かしていこうという態度の向上が見られた。</p> <p>○あいさつができると回答する生徒は比較的多いが、教職員の認識とはずれがある。</p> <p>○全国学力・学習状況調査からは、自尊感情に関わる質問に対し、本校生徒の回答は府や全国と比較すると若干低い数値を示しているが、学校評価アンケートの昨年度の結果と比較すると、自他を大切にする意識が向上していることが伺える。特に「自分は人を大切にしている」という項目に関しては高い結果となった。これからも子どもが自分の長所を見つけ、短所も含めてありのままの自分自身を認められるように、適切な評価を与えることが課題である。子どもの自尊感情を高めるような活動や、適切な声掛けをできるように大人が意識する必要がある。</p>

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○道徳の教材を自分ごとに捉え、実生活の中に置き換えて考えさせる発問や授業の工夫を行っていく。</p> <p>○保護者・教職員をはじめ子どもの周囲の大人たちは、子どもが何を求めているのかをよく見極めながら支援を行う必要がある。子どもへの接し方や声掛けが、子どもの望みをかけ離れていないか、子どもの心に寄り添い指導・助言を行っていく。</p> <p>○環境が人に与える影響は決して小さくないと思うので、まずはそれぞれの教室の美化から見直していきたい。誰かにとっては快適だが、それを苦痛と感じる人もいる環境ではなく、みんながある程度快適と感じる環境づくりを目指していく。</p> <p>○子どもにあいさつの意義について考えさせ、実践させる機会をこれまで以上にもつとともに、日ごろの生活はもちろん、委員会や部活動の中でも、積極的にあいさつができるよう、折に触れて子ども達と共に考えていく。</p> <p>○道徳通信を発行し、家庭での保護者と子どもの対話と橋渡しをしていく。また、保護者にも子どもが受けている道徳の授業について関心をもっていただく機会を増やしていく。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳通信を学期に一回発行できたか。 ・自尊感情（自己肯定感、自己有用感）を高める集団づくり、学級経営を行い、それらの様子を積極的に保護者に伝えられているか。 ・あいさつについて生徒が考え、実践する場面を学級・部活動・委員会等で与えられているか。
学校 関係 者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙にある項目で、特に全国平均よりも下回っている項目に関しては、原因をしつかり究明して、対策をしてほしい。 ・アンケートの項目で、「人を大切にする」というのは、とても漠然としているのではないか。具体的に定義を設けての質問が好ましいのでは。 ・家庭内の子供たちへの接し方が大きく関係してくるのではないか。 ・学校での人との関わりと、社会的にまわりと接し、経験すること、この両方が大切なのではないか。 ・あいさつに関しては、学校によって力を入れている学校とそうでない学校があると感じるが、本校のみならず、他校を訪問した際も、元気なあいさつがあると、お互いにとても気持ちよいものなので、部活動なども先頭に立って、あいさつをがんばってもらいたい。
最終評価	
<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>(%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算)</p> <p>(斜字は中間評価時から特に改善が見られた項目 下線は、今後の課題の対象と考える項目)</p> <p>() 内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。</p> <p>※学校評価アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒……「道徳の授業は今後の生活に活かしている」 1年 92.1% (89.5)、2年 95.4% (91.8)、3年 90.9% (92.7) 「道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」 1年 98.2% (90.4)、2年 92.6% (92.5)、3年 94.3% (92.6) <p>○自尊感情について</p>	

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「自分は周囲から大切にされている」
1年 95.5% (98.2)、2年 96.4% (93.3)、3年 91.8% (94.3)
「自分は相手を思いやり、寄り添う行動ができている」
1年 94.6% (97.4)、2年 98.1% (98.5)、3年 94.2% (97.5)
- ・保護者……「子どもは、自分の長所を知り、自分のよさを生かそうと努力している」
77.9% (75.4)
「子どもは、自分を親身になって考えてくれていると感じている」 86.9% (91.2)
「子どもは、人を大切にする言動をしている」 89.9% (90.9)
- ・教職員……「生徒は、自分を大切にするとともに他者への尊敬・人権の尊重など実践的態度が養われている」 94.7% (95.4%)
「本校では、生徒のよいところを認めて適切に評価している」 89.5% (91.0)
「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を十分生かせるような取り組みをしている」 89.5% (95.4)

○美化意識

※学校評価アンケート結果

- ・「自分は掃除など、きれいな学校になるように努力した」
1年 93.8% (94.8)、2年 96.3% (95.5)、3年 91.8% (91.0)

○あいさつ

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「上京中学校はあいさつができる学校・生徒」
1年 94.7% (96.5)、2年 95.5% (91.0)、3年 90.2% (86.9)、保護者 84.2% (85.1)、
教職員 68.4% (68.2)
「自分はあいさつをしている」
1年 92.9% (94.7)、2年 96.3% (93.1)、3年 95.9% (92.6)

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- 中間評価時に昨年度より改善がみられていた自尊感情について、やや低下している傾向がみられた。それでも、9割は超えていた。
- 人権感覚について、生徒に対しての質問を、前期は「自分は人を大切にしている」だったが、後期は、より具体的な「自分は相手を思いやり、寄り添う行動ができている」に変更した。その結果、やや低下している傾向が見られたが、すべての学年で94%を超えていた。
- あいさつに関する項目に関しては、2・3年生で中間評価時より改善が見られ、全学年9割が肯定的な回答をしている。生徒会の挨拶運動の取り組み等が一助となっていると思われる。しかし、保護者の肯定的な回答はやや低下している。促されてするあいさつから自発的なあいさつの転換までは至っていないと考えられる。
- 道徳の授業を自分ごとに捉え、生活に活かそうとする態度を測る指標が、わずかではあるが改善傾向にある。持ち回り道徳で担任以外の教師からの授業により、多面的・多角的な考えが少しづつ定着しつつあると考えられる。
- 美化意識については、中間評価時とほぼ同じ数値を維持している。心地よい環境を生徒たちの手で作り維持するための取り組みを、全校レベルだけでなく各学年・学級でも継続して取り組みたい。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○自尊感情、人権感覚を高める集団作りや道徳授業の質的改善に向けて、学年会や教職員研修等の場でもっと気軽に議論や情報交換を行いながら、共に学び続ける意識や機会をもつ。その上で、持ち回り道徳やリレー道徳の手法を取り入れて、多面的・多角的な考えがより生徒に定着するような授業を考えていく。</p> <p>○道徳だよりの発行に年間の見通しと計画性をもたせ、生徒や保護者へ喚起を続けていく。</p> <p>○挨拶の重要性について様々な側面から生徒に語り続けながら、生徒が自信をもって挨拶できる良い人間関係を構築し、マンネリにならない取組を生徒と共に考えていく。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>挨拶ができる生徒は多い。これは学校だより等で「地域からの声」を紹介するなどの効果といえる。しかし保護者・教職員とのギャップがあるのも確かである。大人が見本を見せて、引き続き啓発を進めていきたい。また挨拶において、「アイコンタクト」なども挨拶であるという意識を持たせていくことも重要といえる。</p>

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>自らの心身に対する意識を深めるとともに、体力の向上に向けて健康な生活を実践できるよう知識を身につけ、実践を通して健やかな体を育成する。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 運動やスポーツに親しむ気運を高め、「1校1プラン」の計画をもとに<u>体力の向上とともに</u>、運動の楽しさや喜び、達成感・成就感等を味わい、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践できるよう、体育学習や運動部活動の一層の充実を図る。 ② 体育学習や部活動の実施にあたっては、組織的・計画的な安全管理を徹底するとともに、部活動の運営にあたっては、適切な休養日や活動時間を設け、安全で、より充実した活動となるよう学校全体で取組を進める。 ③ 早寝、早起き、朝ごはんなどの<u>基本的生活習慣をさらに確立する</u>ために実態調査を行うとともに保護者や家庭への啓発を図る。 ④ 薬物乱用防止教育、性教育、エイズ教育等の実施により、<u>正しい知識の理解を図り</u>、心や体を大切にする教育を保護者、生徒に向けて推進する。 ⑤ 学校教育全体を通して防災教育や防災管理を充実させ、<u>自ら命を守る主体的態度や安心で安全な社会づくりの意識を高める。</u> ⑥ 感染症の予防に対する正しい知識を身につけ、手洗いやマスクの着用など状況に応じて自ら予防できる能力を身につける。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣アンケートの実施。(毎日の起床・就寝時間、スマホ所持率、使用時間、手洗いなど) ・春と秋に実施する体力テスト結果の比較、「全国体力・運動能力・運動習慣調査(2年生対象)」 ・薬物乱用防止教室、性教育において正しい知識を身につけ、自らの心身を大切にしようとしているか。 ・避難訓練において自ら命を守る主体的態度が育っているか。

中間評価

各種指標結果（下線は、今後の課題の対象と考える項目である）

○全国学力・学習状況調査の結果（3年生対象）より

- ・「朝食を毎日食べていますか？」…「食べている」、「どちらかといえば食べている」87.0%（全国91.9%）
- ・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか？」…「寝ている」、「どちらかといえば寝ている」75.6%（全国79.9%）
- ・「毎日同じくらいの時間に起きていますか？」…「起きている」、「どちらかといえば起きている」91.4%（全国92.1%）
- ・「携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家人と約束したことを守っていますか？」…「きちんと守っている」、「だいたい守っている」67.6%（全国69.5%）
- ・「平日1日あたりどのくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータ、スマホ、ゲーム機）をしますか？」…「4時間以上」が17.3%、「3時間以上4時間未満」が14.4%、「2時間以上3時間未満」が16.5%、「1時間以上2時間未満」が16.5%、「1時間未満もしくはしない」が35.3%。
- ・「平日1日あたりどのくらいの時間、携帯やスマホでSNSや動画視聴などをしますか？（学習に使う場合やゲームは除く）」…「4時間以上」が23.6%、「3時間以上4時間未満」が11.5%、「2時間以上3時間未満」が25.2%、「1時間以上2時間未満」が22.3%、「1時間未満もしくはしない」が13.7%。

○体力テストの結果より

- ・今年度は、コロナ禍ではあったが、全ての種目において実施できた。（この体力テストは全国共通のもので、総合得点をもとに総合評価をA～E段階に分けられる）
- ・本校の集計より、本校の昨年の結果と比較し、男子ではA・B層が16.8%から17.1%に微増、D・E層が45.5%から47.7%に増加。女子ではA・B層が46.2%から39.8%と減少し、D・E層が28.2%から29.8%と微増。
- ・種目で見てみると、20mシャトルラン（全身持久力）で昨年の平均値を比較すると3～5回程度の減少が見られる。
- ・上記は本校の記録を昨年度のものと比較したもので、全国平均との比較ではない。
- ・体力調査の全国結果、京都市結果はまだ届いていない。

○感染症予防

- ・コロナはオミクロン株に置き換わってからは、感染力も強く、本校でも学校や家庭内での感染によって陽性者が増加する時期があったが、他校と比較しても窓や扉を開けての換気や教室の消毒などかなり徹底してできている。
- ・昼食時対面せず、黙食を継続中である。
- ・保健室では生徒がベッドを使用したら、熱のあるなしや使用時間に関わらず、シーツやタオルケットなどすぐに取り換えるようにしている。

○避難訓練の実施

○薬物乱用防止教室、性教育について

- ・昨年2年生の性教育では助産師さんを招いて講演していただくことになっていたが、コロナ感染拡大防止のため実施できなかった。そのため今年6月3年生（昨年に2年生）でその講演を実施した。今年度も後期に2年生で実施予定である。
- ・薬物乱用防止教室も後期に実施予定である。

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ○「朝食を食べる」ことについては、毎年ほぼ同じような結果で、高い水準を保っていたが、今年度は、全国平均 91.9%を下回った。本校の比較で昨年は 93.4%だったので、約 6%の低下である。「起床時間はいつも（だいたい）同じ時間である」と答えている割合はほぼ全国平均であるが、「寝る時間はいつも（だいたい）同じ時間である」では全国平均を 4%下回り、かつ、「平日 1 日あたりどのくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータ、スマホ、ゲーム機）をしますか？」では、「3 時間以上」と回答した割合が 31.7%（全国平均より約 2%増）「平日 1 日あたりどのくらいの時間、携帯やスマホで SNS や動画視聴などをしますか？（学習に使う場合やゲームは除く）」では、「3 時間以上」と回答している割合が 34.5%（全国平均より約 5%増）である。携帯やスマホの使用が睡眠時間を減らし、朝食を食べられないことがあるのではないかという仮説が立てられる。 ○体力テストの結果より、やはり体力の二極化が目立つ結果となっている。 ○避難訓練については、平常通り実施し、かなり早い時間で全員がグラウンドに集合することができた。グラウンドでは生徒同士の間隔を取り、密にならないよう配慮した。 ○学校行事においては、感染対策を行いながら予定通り実施の方向である。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣アンケートの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・3 年生の全国学力・学習状況調査の結果（3 年生対象）より、朝食、睡眠時間、スマホの使用時間の仮説がたてられたが、1.2 年生の実態調査も含めて相関関係がわかるようなアンケートを実施したい。（昨年はコロナ禍で生徒の状態も安定せず、生活習慣アンケートを実施できなかつたので、行事が終わり、落ち着いた時期にアンケートを実施する予定である。）
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣アンケートでは睡眠時間を質問項目に入れ、学習時間、スマホや携帯の使用時間、朝食の有無を中心に行う。 ・体育の授業では体力向上を意識して取り組んできたので、その成果を見るために、秋の体力テストを実施し、春の記録と比較する。また、生徒には各自で変化を考察させる。 	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校だけでなく、高校も体力が下がっていると聞くので、危機感を感じている。持久走やマラソン大会なども取りやめになっている学校も多くあるが、体力づくりの点でも、頑張らせるることは、時には必要なのではないか。良い面、悪い面があるが、相対的に判断をしてもらえると良いと思う。 ・スマホの問題などは、保護者の責任。PTA（親・保護者）が頑張らないといけない。 ・健康面が心配されるので、家庭でしっかりとルールをつくり、保護者がしっかりと守らせる責任があるので。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣アンケートについては、R4 全国学力・運動能力・運動習慣調査の結果で省略する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「朝食を毎日食べていますか？」という質問に対し、「毎日食べる」、「食べない日もある」と答えた割合が 90.4%で全国平均 93.8%と下回る結果となっている。 ・睡眠時間について 8 時間以上の睡眠をとっている割合が 35.6%とこちらは全国平均 30.5%を上回る結果となった。また、8 時間未満 7 時間以上と回答した人を含めると 71.7%となる。

	<p>・平日のスクリーンタイム（学習以外のテレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている時間）については「3時間以上」と答えた割合が45.5%を占め、全国平均46.3%とほぼ同じような感じである。男女別でみると女子は全国平均を上回る結果となった。</p> <p>○体力向上に向けて、体育の授業の中の体づくり運動の時間や授業の最初にトレーニングの時間を設けた。秋の体力テストを実施した。（カリキュラム上、2年生でのみ実施。）結果、総合得点が男子で6ポイント、女子で2ポイントの向上が見られた。</p> <p>○年に2回予定していた避難訓練では、2回とも予定通り実施することができた。</p> <p>○感染症の感染防止に向けた取組については、今年度も体育健康委員によるポスターの制作、呼掛けを行った。コロナ対策については委員会からの制限緩和で授業や部活動は以前の状態に近づいたが、手洗いやうがいの励行、教室の換気、机の消毒など一定の予防対策は継続中である。</p> <p>○外部講師を招いて行う薬物乱用防止教室や性教育については年度当初の予定通り2月、3月に実施予定である。昨年度末、外部講師を招いて行うはずであった2年生の性教育は、コロナの感染拡大防止に伴って実施できなかったため、今年度3年生の1学期に実施することができた。</p>
--	--

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>○春の体力テストが終わった時点で秋にも実施する旨を伝えており、春秋のテスト結果を並べてみることで得点が伸びたことを実感する生徒が多く見られ、達成感にもつながった。また京都府平均まで、男子は0.5ポイント、女子は1ポイントのところまで伸ばすことができた。この結果は体育の授業だけでなく、部活動の活動規制や行動制限が緩和されたことも関係していると思われる。</p> <p>○今年度は体育の授業や部活動での制限が緩和されて、体力向上につながったと思われるが、コロナ禍でのスクリーンタイムの増加、また、朝食の欠食や睡眠不足などによる生活習慣の変化や今までの運動の規制などの影響が大きく、まだ以前の水準には戻っていない。大人だけでなく、生徒一人一人が体力の向上を意識して授業や部活動に参加する。また、アンケート結果や体力テストの結果を保護者の方に知ってもらうことが重要であり、生活習慣については各家庭の協力がなければ、変えることはなかなか難しい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○本校の運動部活動への入部率は全国平均に比べると低く、運動嫌いの生徒の割合が全国平均に比べると高くなっている。そのため、体育の授業以外に体を動かす時間も必然的に少なくなりがちである。その影響で、運動部活動や地域のスポーツクラブに所属している生徒とそうでない生徒の差が大きく、各生徒たちにあったきめ細かな指導が必要になってくる。体育の授業の中の持久走などはしんどい、嫌いという生徒が少なくない。前向きに取り組むためには個々のレベルに応じた目標を持たせ、達成感を味わうような時間にすることが必要である。</p> <p>○体力テストにおいても、自分の現状を知り、どのような体力を伸ばしたいかを意識して授業に参加すること、また健康的な生活習慣を意識することで次回の体力テストの結果に結びつけ、その努力を味わえるようにする。また体力テストの結果や生活習慣のアンケート結果などについて学校だより等に掲載することで保護者にも伝わるようにする。</p>

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>食育をテーマに、簡単に朝食を作れる動画を生徒に見せたりして、生活習慣の大切さを考えさせる取り組みなどを進めている。また体力向上については、体力テストを年2回を行い、分析を進めた結果、生徒の自己肯定感がやや高まった。またダンスの取り組みなど持続的に行うことできついた。「気持ちを高める」「精神力」をつけていくことが重要といえる。</p>
---------	---

(4) 学校独自の取組

重点目標

小中一貫教育<K（鳥丸）K（上京）P（プロジェクト）>における重点目標を「自らの未来を切り拓き、しなやかに生きる子どもの育成」と設定し推進する。

具体的な取組

○小中一貫教育における「目指す子ども像」を踏まえ、以下の取組を行う。

- ・人を大切にする。
- ・あいさつをする。
- ・進んで学ぶ。
- ・自分の考えを表現する。
- ・地域を愛する。

① 小中の教職員が連携し合い、「中1ギャップ」の解消を念頭に置き、入学後も引き続き教科指導や生活指導を行う。

② 新入生の中学校入学に対する不安を取り除くために、部活動体験や授業体験、生徒会による学校紹介等の取組を行う。

③ 授業交流や学力分析を通して、カリキュラムの連続性を考える。

④ 保幼小中合同で地域行事に参加し、ブロックでの家庭・地域との連携を進める。

⑤ 保幼小中合同研修会や小中間での公開授業などを進め、連携を深める。(GIGAスクールでの連携を系統的に図る)

⑦ 「目指す子ども像」について、学校評価アンケートを検証し、結果から9年間の子どもたちの学び・成長を分析する。

⑦ 学校ブロックにある保育所・幼稚園（鶴山保育所・京極幼稚園・みつば幼稚園）との連携を推進する。

(取組結果を検証する) 各種指標

・小中一貫教育構想図に示した「めざす子ども像」について、小中で共通のアンケート項目を分析する。

（共通項目：人を大切にする。あいさつをする。進んで学ぶ。自分の考えを表現する。地域を愛する。）

・小中連絡会や校長会、教頭会、各部会を計画的に実施することができたか。

・保育園・幼稚園・小学校と中学校で開催する上京中ふれあいコンサートを行う。

・小学校と中学校合同の研修会や、授業・部活動体験を行うことができたか。

・学校だよりやホームページ等でKKPの取組を情報発信することができたか。

中間評価

各種指標結果

(%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算) (下線は、今後の課題の対象と考える項目)

今年度のKKP夏季合同研修会で、保幼小中の「めざす子ども像」についての分散会を行い、本校の発表を行ったこともあり、それに伴い再掲することとする。

○学校評価アンケート（前期）

- ・自分は地域を愛し、地域のために役立とうと思っている。

1年 86.0% 2年 82.6% 3年 79.7% 保護者 57.2% 教職員 68.18%

○全国学力・学習状況調査（3年回答）

- ・地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある（習い事の先生は除く） 18.0% (全国平均 21.1%)

- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか。 参加している 39.6% (全国平均 40%)

・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。43.2%（全国平均40.7%）	
---	--

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度末の学校評価アンケートでは、「地域を愛し、地域のために役立とうと思っている」はどの学年も7割弱だったが、今年度はどの学年も8割まで高まっている。これは総合的な学習の時間の取り組みで、地域について学習した成果だと考えられる。しかし、保護者の意識では、57.2%と低いのが課題である。 コロナ禍もあり、地域の行事に参加できていない部分や、地域の大人との交流がややできていない、小中の連携も取りづらくなっていることも課題もある。 KKP夏季合同研修会で保幼小中の先生方と「目指す子ども像」について、分散会形式で研修を行った事は成果であった。特に保幼小中で共通した考えを持つことができたことは大きい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間で進めている「地域を愛する取り組み」を保幼小中で共通理解を図る。 総合的な学習の時間の取り組みについて、学校だよりやHPなどを通じて公開する。 小6授業体験や部活動体験等を通して、保幼小中の教職員の連携を深める。 生徒会や児童会の交流・部活動での交流等を深めていく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の取り組みについて、区役所や商店街の方からの評価をもとに総合的な学習の時間の学習を進められたか。 小6授業体験や部活動体験、学校説明会において、「目指す子ども像」をもとに小中が連携して取り組めたか。 部活動（吹奏楽部の地域公演の実施等）や挨拶運動（生徒会取組）の取り組みを充実させることができたか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> いわゆる「中1ギャップ」と言われる現象が、低年齢化している傾向もある。中学校側の対応を小学校と連携しながら共通理解をする必要がある。 小学校が取り組んでいることを、中学校の先生方にも理解していただき、その指導の過程や、子どもの育ちの現状を受け止めて、中学校での指導に生かしていただきたい。 この地域では、小中連携をかなり前から行っている。先生方の努力で進められていることはありがたい。一方で、保護者認識が薄く感じる。積極的に地域に向けてアナウンスすることが、取組の魅力の理解、ひいては安心感につながるのでは。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>(%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算) (下線は、今後の課題の対象と考える項目)</p> <p>() 内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。</p>	
○学校評価アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 自分は地域を愛し、地域のために役立とうと思っている。
	1年 86.6% (86.0%) 2年 88.9% (82.6%) 3年 <u>78.8%</u> (79.7%) 保護者 56.4% (57.2%) 教職員 89.5% (68.2%)
○小6授業体験は実施できたが、部活動体験は実施できず、DVDによる紹介のみとなった。	
○吹奏楽部の地域演奏会は今年度数回ではあるが、開催することができた。	

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>○「地域を愛し、地域のために役立とうと思っている」項目に関して 2年生で6.2%前期より高まっている。これは2年間の総合的な学習で地域について課題解決的な活動を続けた結果といえる。</p> <p>1年生に関しては、後期から総合的な学習で地域について学習を始めたので、今後上昇していくことを期待している。</p> <p>3年生はやや低い点が課題といえる。3年生に関しては卒業年次でもあり、より地域貢献の気持ちを高める取り組みが必要と感じる。また、保護者に協力をお願いすることも必要と感じた。</p> <p>○部活動体験については、小学校との連携を深め実施できるように工夫していきたい。</p> <p>○地域からの依頼を受けて、吹奏楽部の活動として、来年度も開催できればと思う。</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○総合的な学習に関して、3年間のプランを見直して「地域のために」という気持ちを高め、自己有用感や未来を切り開く力の育成をさらに進めたい。また来年度はチャレンジ体験を行う予定なので、地域との交流を通して、保護者に協力をお願いすることにも努めていきたい。</p> <p>○部活動体験について、小学校と連携して行う方向で考えている。</p>

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標
業務の効率化を図るとともに、自分自身のライフワークバランスについて見つめ直す。
具体的な取組
<p>① 日常的に業務時間、退勤時間について呼びかける。</p> <p>② 会議を精選、効率化する。</p> <p>③ 教職員1人ひとりが、ライフワークバランスの意識を持って業務遂行するように呼びかけ意識づける。</p> <p>④ <u>O J Tを意識した職場環境をつくる。</u></p> <p>⑤ 会議の時間短縮と行事の精選や準備等の効率化を目指す。</p>

中間評価

各種指標結果
○出退勤システムにおける超過勤務者（80時間以上）・時間外勤務時間集計結果（教職員32人）
・4月… 9人（平均56h8m）【昨年度12人（平均64h42m）】
・5月… 9人（平均54h41m）【昨年度 4人（平均47h15m）】

- ・6月… 7人（平均56h34m）【昨年度 7人（平均73h0m）】
- ・7月… 0人（平均43h19m）【昨年度10人（平均61h14m）】
- ・8月… 0人（平均18h55m）【昨年度 2人（平均20h47m）】
- ・9月… 7人（平均53h10m）【昨年度 3人（平均47h9m）】
- ・3か月連続80時間以上超過勤務者…5人

○職員会議の資料が事前に配布することができない時もあった。また、統合端末を用いた資料共有を試行する計画があるが、まだできていない。

○教職員の協力により、職員会議・研修会の時間短縮ができた。

○今年度は昨年度に比べ、働き方改革の意識が上がり、生徒と関わる時間を大切にしつつ、退勤時間の目標を決め、他の仕事の効率化を目指した働き方をする教職員が増えた。

○学校評価アンケート（教職員）では、「自分は、ライフワークバランスを考えて、業務の効率化を図っている」の項目で、「そう思う」「ほぼそう思う」が、重要度・実現度とも86.4%であり、意識の高さがうかがえた。

自己評価

分析（成果と課題）

- 出退勤システムの内容から、勤務時間の長くなっている教職員に意識的に声をかけるとともに、仕事量に偏りがないか、などの配慮ができる限り行った。
- コロナの影響で欠席している生徒に対応するためや、授業などで用いるICT機器の整備や準備に時間をとられることも多かったが、教職員が工夫を重ねることで、そこにかける時間もある程度短縮することができている。
- コロナ感染防止の観点から、研修会の案件の精選・時間短縮を行った。
- 留守番電話機能の活用や、働き方改革などの流れで、一般家庭が考える教職員の勤務時間の意識が変わりつつあり、勤務時間外の朝早い時間帯や夜遅い時間帯における家庭連絡に対応する機会が減り、さらに、教職員も保護者対応をする時間帯を配慮するようになっている。

○超過勤務の分析

- ・4～6月において、昨年度は、コロナに関する緊急事態宣言・まん延防止措置などの関係で、行事の延期・中止、部活動休止期間などがある月もあり、一概に比較は難しいが、おしなべて時間外勤務の平均時間については短縮傾向にある。
- ・当初、学級閉鎖などにともなう連絡業務や、リモート授業などの準備作業に時間を費やすことが多かったが、校内で対応を共通理解することで、時間短縮を図ることができた。
- ・様々な行事や取組を工夫しながら再開することで、教職員と生徒が接する時間が増えたが、その分仕事の効率化を図り、昨年度よりも勤務時間を意識することで、超過勤務時間が減少したと推測される。
- ・休日の部活動指導や、対外試合・大会などの生徒引率指導など、平日の勤務時間にプラスされる時間の軽減が図れていないことは今後とも課題である。

○各自が自身のライフワークバランスについて考える雰囲気が職場に出てきたので、更に意識を高めることが引き続き課題である。

○職場内のOJTの意識を高め、さらなる業務の効率化を図ることも依然課題である。

分析を踏まえた取組の改善

- 生徒に関わる活動のための仕事を従前どおり継続しつつ、勤務時間の目標を設定し、その目標を達成できるように各自が意識を高める。
- 各自がライフワークバランスと仕事の効率化を図るよう意識改革をさらに呼びかける。

	<ul style="list-style-type: none"> ○OJT を浸透させ、中堅・ベテラン教職員と若手教職員が仕事の分担を図り、時間短縮を図る。 ○部活動指導時間と勤務のバランスを意識し、定着しつつある退勤時間の目安を引き続き意識していただくように呼びかける。 ○校務支援員、ICT 支援員 の活用をすすめる。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムの集計を分析、検討する。 ・学校評価アンケート（教職員）での意識調査を継続する。 ・会議の資料は事前配布する。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGA 端末を使用して、教材を作成するのは余計たいへんになっているのでは、と危惧する。 得手不得手があると思うが、格差が出ないように頑張ってほしい。 ・ICT 支援員をうまく活用してほしい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出退勤システムにおける超過勤務者（80時間以上）・時間外勤務時間集計結果（教職員32人） <ul style="list-style-type: none"> ・10月… 10人（平均 59h57m）（昨年度 15人（平均 68h41m）） ・11月… 5人（平均 49h44m）（昨年度 11人（平均 57h52m）） ・12月… 3人（平均 42h26m）（昨年度 7人（平均 54h50m）） ・1月… 1人（平均 38h46m）（昨年度 6人（平均 49h47m）） ○業務の効率化・ライフワークバランスへの意識など、退勤時間について意識が高まっている。 ○職員会議・研修会の資料は事前に配布できたことも多かった。 ○職員会議・研修会の効率化を意識して時間短縮ができた。
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○働き方改革の意識が社会に浸透し始めていることもあり、教職員が保護者対応の時間帯を配慮するようになり、特に教職員・保護者共に遅い時間帯の電話対応は減少している。 ○職員会議・研修会の資料を事前配布することをほとんど実施できた。結果、ある程度会議時間の短縮を図ることができた。今後は懸案となっている、Teamsを利用した資料配布を実現し、時間短縮・ペーパーレス化を進める。 ○超過勤務の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・10月～1月に関する昨年度比は、人数も平均時間も減少した。しかし、未だ100時間超えが10月は5人、11月は3人おり、部活動公式戦生徒引率指導、文化祭や体育大会の取組などがあり、全体的にかつ一部の教員に負担がかかった。 ・「No残業デー」（水曜日）をはじめ、ライフワークバランスを意識することにより、全教職員が退勤時間を意識して早くに帰宅する傾向にある。一方でコロナによる自宅待機生徒へのリモート授業配信対応準備・配布物の準備、家庭連絡などに要することが続くなど、負担も継続することとなっていた。 ・自身の健康管理・ライフワークバランスについて考える職員が増えてきたことから、これを機に更に意識が高まり、業務の効率化を工夫する体制になることが引き続き今後の課題である。 ○次年度の課題

	<p>生徒と接する時間は維持し、さらに工夫した関わり方を模索することが必要であることと、行事の精選、業務の効率化、部活動完全下校時間の見直しや、休日の部活動の在り方など、超過勤務時間を月に45時間以下を達成するにはどのような点で工夫が必要か、今後議論しながら実行できれば、と考えている。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムの集計を分析・検討を継続する。 ・会議資料を事前にTeamsで配信し、時間の効率化、ペーパーレス化を図る。 ・OJTを推進することで業務の効率化に繋がる組織風土を目指す。 ・完全下校時間の変更による、平日の勤務時間内での部活動指導。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>保護者に理解を求めながら、働き方改革を進めていく。特に完全下校などの時間変更や部活動についてはお願いすることになる。今後、部活動の地域移行などの推進モデル校を中心に行われている取り組みを参考にして、改善を図っていきたい。</p>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安心して学習その他の活動に取り組むことができる集団づくり、学級経営を推進する。 ・生徒一人一人を大切にした信頼関係構築のための心の通った指導、見逃しのない観察、先を見越した対策を推進する。
	<p>具体的な取組</p> <p>「学校いじめの防止等基本方針」に同じ</p> <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めているか。 ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介しているか。 ③ 学校評価(生徒向けアンケート)「生徒は、上京中学校が仲のよい学校であると考え、自分自身も学年や学級のみんなと仲良く過ごせ、楽しく学校へ通えていると感じている。」に関する項目を検証する。 ④ 生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有しているか。 ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知しているか。

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>①年度初めの職員研修でいじめ防止基本方針の確認を行った。</p> <p>教職員アンケート「自分は“学校いじめの防止等基本方針”の内容を理解し、組織的対応に努めている。」では、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は100%であった。</p> <p>②今年度の始業式はグラウンドにて全校集会の形で行った。また、入学式は体育館で行った。その時、学校長の方からいじめなど困ったことが起きた時はすぐに係の先生や自分が相談しやすい先生に相談に行くように指導してもらっている。</p>
--	--

③各種アンケート結果（%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

（下線は、今後の課題の対象と考える項目）

○学校評価アンケート結果

- ・生徒……「自分は、楽しく学校に通っている。」1年93.9%、2年89.4%、3年87%
「上京中学校は、人を大切にする学校。」1年100%、2年96.3%、3年96%
「自分は、周囲から大切にされている。」1年98.2%、2年93.3%、3年94.3%
「自分も人を大切にしている。」1年97.4%、2年98.5%、3年97.5%
「上京中学校は、先生と生徒が話しやすい学校。」1年98.3%、2年96.2%、3年97.5%
「自分はいじめられたり、いじめを見たりした時に、教員の誰に相談すればいいか知っている。」
1年87.4%、2年93.0%、3年94.3%
- ・保護者…「学校は、生徒一人ひとりを大切にする授業・学級経営に努めている。」92.6%
「先生は、楽しい学校づくりに努めている。」95.8%
「生徒は、生き生きとしている。」91.6%
「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。」86.3%
「子どもは、自分が大切にされていると感じている。」91.2%
「子どもは、人を大切にする言動をしている。」90.9%
「子どもは、先生と話しやすい相談しやすいと言っている。」79.9%
「HPの“学校いじめの防止等基本方針”を読んだことがある。」
“読んだ”23.3%、“知っているが読んでいない”34.6%、“知らないかった”42.0%
- ・教職員…「本校では、カウンセリングマインドをもって生徒に接し、適切に指導している。」
90.91%
「本校では、生徒のよいところを認めて適切に評価している。」90.9%
「生徒は自分を大切にすると共に、他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度が養わ
れている。」95.45%

④ 定例の生徒指導委員会で個別ケースの検討を行い、職員会議で内容を共有している。

教職員アンケート「本校では、生徒・保護者（アンケート結果含む）の訴えや相談内容を共有してい
る。」では、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は100%だった。

⑤「上京中学校学校いじめの防止等基本方針」のホームページ掲載を行った。

自己評価	分析（成果と課題）
	いじめアンケートや教育相談から現在の段階で数件のいじめが早期に発見し、担任、学年、 係を中心に対応し、解決することができた。また、日々の生活においても各学年のフロアで しっかりとパトロールしながら、生徒の行動を観察できていることや、生徒と教員間で一定の人 間関係が築かれているため、多くの案件で早期発見対応ができているともいえる。 昨年度までにあった重大事案に該当する事案や上記のいじめについても、会議や研修ごとに情 報共有を行い、それぞれの生徒をケアしながら、今後も注意深く経過観察していくことが必要と 考えている。
	分析を踏まえた取組の改善
	今後も生徒指導委員会等を中心に各学年の情報交換を続け、会議等において教職員間の連携 を密にし、いじめの早期発見により一層取り組んでいく必要がある。具体的には、10月や11月 にも教育相談やいじめアンケート等を行い、いじめの早期発見に努めたいと考えている。 また、いじめが発見された場合には、学年を超えて、係、管理職も加わりながら、学校全体で対応

	<p>に当たりたいと思っている。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会や補導部会を中心に各学年の情報交換を続け、会議等において教職員間の連携を密にし、いじめの早期発見により一層取り組んでいるか。 ・教育相談やいじめアンケート、また各学年パトロール等を行い、いじめの早期発見に努めているか。 ・いじめが発見された場合には、学年を超え、係、管理職も加わりながら、学校全体で対応できているか。 ・会議や研修ごとに情報共有を行い、いじめに関係したそれぞれの生徒をケアしながら、注意深く経過観察できているか。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の考えがいろいろある。学校側と保護者でいろんな話をして、先手必勝で様々な場面で対策を打てるとよい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

◎教職員アンケート「自分は“学校いじめの防止等基本方針”的内容を理解し、組織的対応に努めている。」は、1回目は、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は100%であったが、2回目は合算数値が96%であったのが気になる。

◎各種アンケート結果 (%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算)

(下線は、今後の課題の対象と考える項目)

()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。

○学校評価アンケート結果

・生徒……「自分は、楽しく学校に通っている。」

1年 90.4% (93.9)、2年 92.8% (89.4)、3年 91% (87)

「上京中学校は、相手を思いやり、寄りそう行動ができる学校。」

1年 92.1% (100)、2年 100% (96.3)、3年 95.1% (96)

「自分は、周囲から大切にされている。」

1年 95.5% (98.2)、2年 96.4% (93.3)、3年 91.8% (94.3)

「自分は、相手を思いやり、寄りそう行動ができている。」

1年 94.6% (97.4)、2年 98.1% (98.5)、3年 94.2% (97.5)

「上京中学校は、先生と生徒が話しやすい学校」

1年 98.3% (98.3)、2年 99.1% (96.2)、3年 95.2% (97.5)

「自分はいじめられたり、いじめを見たりした時に、教員の誰に相談すればいいか知っている」

1年 89.3% (87.4)、2年 95.4% (93.0)、3年 91% (94.3)

「自分はいじめはしてはいけないということを認識（わかっている）している。」

1年 98.2%、2年 100%、3年 98.4%

・保護者…「学校は、生徒一人ひとりを大切にする授業・学級経営に努めている。」 86.9% (92.6)

「先生は、楽しい学校づくりに努めている。」 93.2% (95.8)

「生徒は、生き生きとしている。」 91.0% (91.6)
「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。」 82.0% (86.3)
「子どもは、自分を親身になって考えててくれていると感じている。」 86.9% (91.2)
「子どもは、人を大切にする言動をしている。」 89.9% (90.9)
「子どもは、先生と話しやすい、相談しやすいと言っている。」 79.3% (79.9)
「HP の“学校いじめの防止等基本方針”を読んだことがある。」
“読んだ”25.2% (23.3)、“知っているが読んでいない”38.0% (34.6)、
“知らなかった”36.8% (42.0)

- ・教職員… 「本校では、カウンセリングマインドをもって親身になって相談に応じている。」
94.8% (90.91)
「本校では、生徒のよいところを認めて適切に評価している。」 89.5% (90.9)
「生徒は自分を大切にすると共に、他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度が養われて
いる。」 100% (95.45)

- ◎ 定例の生徒指導委員会で個別ケースの検討を行い、職員会議で内容を共有している。
教職員アンケート「本校では、生徒・保護者（アンケート結果含む）の訴えや相談内容を共有し
ている。」では、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は 94.7% (100) だった。
- ◎ 「上京中学校学校いじめの防止等基本方針」のホームページ掲載を行っている。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	いじめの認知件数は年間を通じても前年度より増えたが、それはいじめアンケート等で分か った些細なからかいもいじめとして捉え、早期発見対応をしたことによるものである。事案に よっては一定の改善後も注意深く経過観察を必要とするものがあり、学年を中心にその後も注 意深く見守っている。 いじめと認知している事案に関しては、会議や研修ごとに情報共有を必ず行い、卒業まで継 続し、それぞれの生徒をケアしていく必要があると学校は捉えている。 また、生徒と教員間で一定の人間関係が築かれていることがとても大切であり、多くの案件が、 いじめアンケートや教育相談、各学年のパトロール等で早期発見対応ができているともいえる。 そのため、本年度も教育相談を 3 学期にも入れ年 3 回行うようにし、パトロールも強化し、早 期発見対応に努めたこともよかったです。
	分析を踏まえた取組の改善
	生徒に対するアンケートでは、どの項目の数値も高く（特に 2 年生）、生徒一人一人を大 切にする日々の取り組みが数値に表れていると思われる。また、昨年もそうであったが、「先生 と生徒が話しやすい」の評価では、生徒はどの学年も 100% に近い高い数値だが、保護者アンケ ートでは 79.3% と昨年より高くなったものの、他より低い数値なのが気になる。これからも適 切かつ丁寧な生徒との関りや、保護者対応を心がける必要を感じた。 いじめの指導については、早期発見対応がとても大切になってくるので、生徒の悩みや課題解 決について把握するために、次年度もいじめアンケートや教育相談、各学年のパトロール等をし っかり実施していきたい。また、いじめ等の生徒指導に関する生徒指導委員会や全体での研修会 等を充実させ、校内での生徒の行動を全教職員が注意深く観察していく意識を高めていきたい。

学校関係者による意見・支援策

学年・学校をあげて、早期発見・早期対応を行っており、生徒の行動を全教職員で見守ることができている。しかし「生徒と先生が話しやすい」点の保護者の意識はまだまだ啓発が必要といえる。コロナ禍で学校へ足を運ぶ機会が少なくなっていることもあるが、今後保護者とのコミュニケーションを一層図っていきたい。